

広げよう！優良実践の輪！

～平成27年度 頑張る学校応援事業 優良実践校の取組～

取組 21

自己肯定感を高め、主体的に活動する
たくましい児童を育成する取組

赤磐市立山陽小学校

1 はじめに

本校の児童は、素直ですが、受け身的で人の意見に流されやすい傾向がありました。また、自信がなく不安感のある児童が多く、たくましさや集団への適応力に課題を感じていました。

2 取組の概要

授業、授業外、家庭において児童に【役割】・【期待】・【承認】を与えることで自己肯定感を高め、内面を充実させることにより主体的に活動しようとする意欲を育ててきました。

(1) 授業における取組

「岡山型学習指導のスタンダード」を基に「全員参加」（児童の役割）の授業を目指し、児童が「課題設定・課題解決」（期待）し、「達成感・満足感」（承認する）を味わうことができる

よう研究しました。



全員参加を目指した授業

(2) 授業外における取組

学校行事や児童会活動等において、役割・期待・承認をどう捉えるかを明らかにして児童の活動の場を保証してきました。児童会がスローガン「だれとも仲よくふれあう山陽小」を掲げ、常にスローガンに沿った話し合いや活動ができるようにし、



縦割り班で活動する「わくわく集会」

児童会活動や学級遊び、縦割り班遊びが児童主体になるように活性化させてきました。また、中学校区で取り組んでいるあいさつ、くつそろえ、チャイム着席に加え、黙って集合、黙って掃除、整理整頓などの凡事徹底に取り組み、自己をコントロールする力を高めるようにしました。

(3) 家庭における取組

保護者にスマートフォン・携帯電話・ゲームを使うときの約束を守る同意書の提出を依頼す

るとともに、月1回程度「生活レベルアップするぞう」カードを活用し、家庭での生活習慣の改善に取り組みました。また、該当学年以前の学習を振り返る週末課題について周知し、家庭学習の充実に取り組みました。この取組にあつては、学習・生活習慣の改善を児童の役割とし、声かけ・励ましを期待とし、努力を評価することが承認であると捉えました。

3 おわりに

児童に「やればできる、がんばってよかった、みんなの役に立ってよかった」という気持ちが芽生えるにつれて、総合質問紙調査アンケートの自己肯定感に関わる項目のポイントが上がってきました。そして、同時に、欠席者や遅刻者の延べ人数が減少してきました。

今後も今までの取組を発展させ、自己肯定感を高めることにより、より主体的に活動できると考えています。

（校長 池本 桂治）

全教職員で取り組む学力向上に向けての取組

浅口市立六条院小学校

1 学校の現状と課題

本校は、数年来、授業づくりと教師の指導力向上を目指してきましたが、児童の基礎学力の定着という面においては課題が残っていました。また、自分の思いや考えを友達に分かりやすく説明することに苦手意識をもっている児童が多いことも本校の課題でした。そこで、児童の学力向上に向けて全教職員で取り組むことを共通理解し、取組を進めることにしました。

2 取組の概要

(1) 落ち着いた学校づくり

まず、児童の学習・生活両面において基盤となる落ち着いた学校づくりに取り組みました。本校には、「六小つ子の合い言葉」があります。「進んであいさつ」、「黙ってそうじ」、「靴そろえ」、「黙って集合」、「ろうか歩行」の五つです。この合い言葉を全員が意識し、徹底することとに努め、この合い言葉を児童の落ち着きの指標としました。

(2) 学級における人間関係づくり

温かい人間関係を築くために、アセスを活用したり教育相談を充実させたりしながら児童理解に基づく学級経営を進めています。また、学級遊びや担任との外遊び、兄弟学年による「ここにっこ遊び」、友達のおよさを見つける児童会の「にっこの木」の取組等、児童の主体的な取組も行っています。



「くつそろえ すっきりそろっていい気分」

児童会の取組も重視し、児童の主体性を大切にしながら教師と児童で取り組んでいます。

(3) 学力向上の取組

学力向上については、授業の充実と基礎基本の確実な定着（振り返り）を両輪とし、全教職員で取り組みました。

① 授業の充実

本校では、岡山型スタンダードを基に、伝え合いと振り返りの活動に重点を置いた「六小スタイル」を作成し、授業実践に取り組みんでいます。伝え合う場面では、ペアやグループトークを効果的に活用するとともに、児童の考えを深めるための教師の発問や切り返しの工夫をし、広がりや深まりのある伝え合いになるよう努めています。



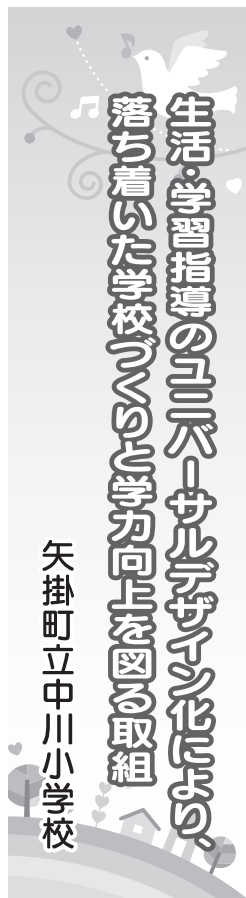
第5学年算数科「合同な図形」での伝え合いの様子

3 成果と今後の課題

学力向上に向けて、全教職員で取り組んだ結果、基礎基本の定着が見られるようになりました。また、授業実践の積み重ねにより、少しずつではありますが、児童の思考が深まり、伝え合いの質も高まってきたように思います。課題としては、基礎基本の定着における個に応じた指導のあり方、深まりのある伝え合いを成立させるための教師の授業力の向上等が挙げられます。今後も全教職員で力を合わせて取り組んでいきたいと考えています。（校長 藤井直樹）

② 基礎基本の確実な定着

学力向上推進委員会を中心に、教研式学力テストや全国学力・学習状況調査等の分析結果をも



1 学校の現状と課題

本校は学級数7学級（特別支援学級1学級）の小規模校です。保護者・地域は教育に熱心で学校に大変協力的な地域です。小規模校ではありますが、特別な支援を必要とする児童が多く、周りの音に敏感に反応したりこだわりが強く、気になることがあると授業に集中できなかつたりする状況がみられました。また、担任によって指導の仕方やルール等にばらつきがあり、学校全体として落ち着きに欠ける場面もしばしば見られる状況がありました。

2 取組の実際

① 特別支援教育の充実

アセスメントシート、hyper QUを活用し、特別支援

4月	5月	6月	7月
●	●		
●	●	○	
●	●	○	
●	●	●	●
●	●	●	●

授業の約束の振り返り

② 学習規律の確認・徹底

「中川小学校 授業の約束」

教育の視点を生かした児童理解、教室環境整備、授業づくりに取り組みました。まず実態を把握し、落ち着いた学習や学習内容の理解に向け、個々の児童の困難さの軽減を図るように共通理解をしました。

③ 授業改善

を策定し、担任が替わっても一貫した指導になるようにしました。どの教室も定位置に掲示し、守れている状況を定期的に、視覚的に振り返られるようにしながら、全教職員で確認し、繰り返し指導して定着を図っていました。



見通しの提示、構造化された板書

1時間の授業の見通しを示したりICT機器を効果的に活用したりして、岡山型スタンダードを基にわかりやすい授業を実践しています。

④ 補充学習の強化

地域学習支援ボランティアとの連携や県の放課後学習支援事

業を取り入れ、朝学習・放課後学習等で基礎学力の定着を図っています。

⑤ 家庭学習の定着

P T A 教養部との連携で毎月第2週目を「中川小学校家庭学習強化週間」として位置付け、取組状況を学校便りやP T A 新聞で報告し、定着に努めました。また、年3回の矢掛町家庭学習強化期間の取組（町内全小中学校で実施）を実施し、矢掛町全体でも家庭学習の定着を図っています。

3 おわりに

特別支援教育の視点で生活・学習環境、授業を見直し、全教職員が共通理解を図り同じ歩調で指導にあたることで、次第に学校全体に落ち着きが見られるようになり、児童の学習への取組方や学力が向上してきました。今後は、さらに学び合い学習を推進し、児童の主體的な学びに向けての教育の充実を図っていききたいと思えます。

（前校長 小田 美津子）

小学校と連携した、健全な児童生徒の
育成の取組

津山市立津山東中学校

1 はじめに

本校は津山市の東方に位置し、その学区も7小学校にわたる広範な地域を占めています。

家庭との連携が進みにくい状況での問題行動が頻発し、事後の生徒指導に追われていました。

そこで、全教職員が、登校時や授業の中で生徒に前向きな声掛けを行うなど、教育相談的な生徒指導を積極的に推進してきました。

また、PTAと共に小中連携事業を積み重ねてきました。

2 重点的な取組

目指す学校像として『笑顔があり元気な学校（生徒・教職員・保護者）』を掲げ、日々教育活動に取り組んでいます。

(1) 生徒指導の取組

【無言入場】

式典や集会時は、体育館へ無言で入場して整列します。生徒

会を中心に取り組むことで自然に、当たり前になってきています。



無言入場をうながす生徒

【生活レベルアップ】

生徒たちの生活をさらにステップアップさせるため「自己指導能力の育成」の取組を進めています。

学校全体の毎月のテーマ・目標から個人の生活目標を決め、一週間ごとに振り返りを行います。

す。

(2) 小中連携の取組

校区内7小学校と、子どもたちの育ちの共有をテーマとして、「できることからできる範囲で少しずつ」を合言葉に取り組んでいます。

○基本的な学校生活

チャイムの合図を守る・くつをそろえる・あいさつをする等の学校生活の基本を共通して取り組んでいます。

○メディアコントロール

PTAとも連携して、中学校の定期テスト週間にあわせた「ノーメディア週間」を実施しています。

○授業交流

年1回、校区内の小学校の教職員全員が中学校の授業参観を行います。

中学校からは、定期テストの初日に小学校へ授業参観に行き、授業交流を図っています。

夏季休業中には、小学校の学年別に分かれて研修し、各学年で身につけておきたい力を確認し合います。

○PTAの連携

PTAにおいても、毎学期、役員による小中連絡会を開催し、情報交換や研修を行っています。

3 おわりに

「無言入場」の取組は、小学校でも広がり、成果を上げています。チャイムでの授業スタートの取組など中学校区全体の共通した実践が徐々に増えています。

生徒指導上の課題もまだまだ多く、日々の生徒への指導に根気が必要とする学校ですが、地域の方々に見守られながら、「笑顔があり元気な学校」を目指して、半歩ずつ歩みを進めています。

(校長 松本勝巳)



研究協議の様子

中学校区の学校園連携。 協同学習の取組

岡山市立福田中学校区

1 はじめに

本中学校区では、幼小中の連携を深めるとともに、地域とも連携を強め、中学校区として子どもたちの学力向上や豊かな心の育成に努めています。

2 取組の概要

① 学力向上に向けた学校園の連携

みんなで課題に取り組む「課題解決型の学習集団」を築くことを目指し、平成21年度から中学校では全教員がすべての授業において協同学習の手法を取り入れ、子どもたちの主体的な学びが展開されています。小学校も平成26年度から中学校と歩調を合わせ、協同学習の手法を取り入れた授業改善を行っています。小学校・中学校それぞれ年3回、公開授業研究会を実施しており、小・中学校の教員が相

互に授業参観や研究協議に参加し、連携を深めています。



協同学習の授業風景

また、1・2学期末に中学校の全教員が小学校へ出向き、小学校5・6年の全学級で、自分の専門教科の授業を実施しています。3学期には、小学校の教員が幼稚園へ出向き、幼稚園の年長組で授業を実施しています。さらに、幼稚園・小学校が中

学校の定期考査に合わせテレビやゲームを我慢して学習時間や家族とのだらんの時間を確保しようとする「NOテレビ・NOゲームウィーク」の取組を平成26年度から実施しています。中学校生徒会が主体的に幼稚園・小学校にも呼びかけ、学区の家庭全体の取組に発展させています。学期初めにしつかり朝食を食べて登校する「朝から元気に ブレックファスト ウィーク」の取組も中学校生徒会の主体的な活動として行い、基本的な生活習慣の定着を図っています。

② 豊かな心の育成を目指した学校園の連携

ESDの取組の一つとして「地域を知る」ことをテーマに平成23年度から夏休みに小・中学生のグループで地域の史跡を巡るスタンプラリーを実施しており、参加者数も年々増え、地域の行事として根付いてきています。運営は連合町内会やPTAの支援を受けながら有志の中学生が行っています。

これ以外にもクリーン作戦など地域の様々な行事に多くの小



地域の美化活動

・中学生がボランティアとして参加しています。

3 おわりに

これまでの取組を通して、子どものコミュニケーション能力の育成や学力の向上、主体的に物事に取り組む姿勢を身に付けることに一定の成果は見られています。今後も落ち着いた学習環境の整備や学力の向上、心豊かな子どもたちの育成につながるよう一層取組を充実させていきたいと思えます。

(福田小学校長 米倉 伸之)

(福田中学校長 福島 治子)